



諏訪神社

旧鎮座地・館山市館山(現上仲公園)
現在は館山神社に合祀されている

祭神

由緒

建御名方命(たけみなかたのみこと)
旧別当長福寺(仲町)

大正十二年八月までは現在の
上町と仲町の産土神として
諏訪神社が鎮座して
いました。しかし大正十二年(一九二
三)九月一日に起きた関東大震災により諏
訪神社が倒壊し、その後は、城山を背景と
した館山町の中央たる
清浄の土地に新築
された、館山神社へ
合祀されました。上
町集会所には当時の
諏訪神社に施されて
いた安房の名工・武
志流三代目武志伊八
郎信美作の龍の彫刻
が残されています。



旧諏訪神社にあった武志伊八郎信美(三代伊八)の彫刻



関東大震災前の諏訪神社の扁額



8/12 館山のまつり
祭りの起源 大正三年、旧館山
町(現在の青柳、上真倉、新井、下
町、仲町、上町、楠見、上須賀地
区)と、旧豊津村(現在の沼、柏
崎、宮城、笠名、大賀地区)が合併
し館山町になったのをきっかけに、
大正七年より毎年十三地区
十一社が八月一日・二日の祭礼
を合同で執り行うようになりま
した。その後、大正十二年の関東
大震災により、諏訪神社(下社)、
諏訪神社(上社)、厳島神社、八坂
つり」です。

自慢の祭

上町の祭礼は例年八月一日、二日に行
われる「館山のまつり」に山車を出祭しま
す。古くは「上町協進會」という組織が
祭礼の運営をしていた時代もあり、残さ
れている昭和二十一年八月の写真にその
面影を見ることが出来ます。現在は区、
壮年会、青年会等の各組織の協力のも
と上町区が一体となつて様々な運営を行っ
ています。



五月に行われる試験曳き

また山車の飾り付けや花折り、太鼓・
笛の練習も含めた段階から応援に来て
くれる「祭り好きで熱い」三十人を超え
る若衆達に支えられています。また、祭前
の五月には「試験曳き」が行われ、準備に
余念がありません。



山車にのせる前に
人形台に飾られる山車人形

上町のお囃子は、ぴつとこ・やたい・し
ちようめ・へぐり・さんざり、昔はお囃子に
よつて「バチを変えて叩く」といったこだわり
がありました。また以前にはしゃかん・ぴつ
とこの踊りも披露されていました。太鼓の
練習はお祭りの3週間前から行われ、集
会所は入りきれないほどの多くのこども
達で溢れます。さらに二年を通して毎週
金曜日の夜に笛の練習会が集会所で行
われ、十人ほどの
の笛吹きが日
頃より腕を磨
き合っています。
昭和五十年
代前半に統一
された半纏の



昭和21年撮影 上町協進會

大紋「上若」の牡丹
文字は今も変わら
ず受け継がれ、伝
承と伝統を重んじ
る深い心意気を感じさせます。
二日間の山車曳廻しの中でも特
に盛り上がりを見せるのは、八月
二日の本祭で、夕方に館山神社前
へ向かう前の海岸通りからの上り
坂です。ここでは高揚感に溢れた
まさに上町らしい祭りの場面に出
会うことができます。

上町の山車は、下段幕の傷みを
防ぐなどの意味もあり、大幕下回
り三方の床板が抜かれていて、子
どもは乗れないようになっていま
すが、その分子ども達は大人に交
じって綱を持ち曳き廻しに参加し
ます。山車に乗れない分、どんな場
面でも綱を持つこども達を排除し
ないという温かい志があります。
大人から子どもまでが一体とな
り作り上げる、皆が楽しみ合える
自慢の祭りです。



館山神社へ入祭する上町山車



大人から子どもまでが一体となって盛り上がる曳き廻し

このパンフレットは、地域の方々からの聞き取りを中心に、さまざまな文献・史料からの情報を加えて編集しています。内容等につきましてご指摘やご意見等ございましたら、ぜひご連絡いただき、ご教示賜りたくお願いいたします。



「上若」の大紋